



談話室

ある小児科医のつぶやき



齋藤 和代

縁があって、場違いなところですが、投稿させていただきます。

まず、東日本大震災により被害にあわれた方々に、心よりお見舞いを申し上げます。そして、1年余りを経て、首都圏に住む、一人の小児科医、母親としての思いをしたためさせていただきます。

小児科医といっても、療育という分野を主なフィールドとして、ほぼ15年間位を過ごしてまいりました。聞きなれない方も多いと思いますので、簡単にご紹介いたしますが、生まれつき、もしくは、何らかの神経や筋肉の病気で、身体もしくは精神的な障害をもつ子供たちとそのご両親と共に、外来で診療や訓練、集団療育をしながら、子供の成長を見守る仕事ともうしましょうか。ここでは、子供の幸福を願う母たちの強い思いがあります。「あの時の自分の行為が障害の原因ではないか」といった自責感に苛まれ、少しでも障害をなくせるように必死になる母親たちに、時には障害の受容を求め、ありのままの子供を受け入れるように伝える。そこには、経験上、ある程度の将来的な見通しが持てることのできるアドバイスがあります。

しかし、今回の、放射能汚染の問題は、これまで世界中をみても経験をしたことがない未曾有の出来事と言えましょう。そのため何を基準に考えていけばよいのか、所謂ものさしがないのです。

今回の事故のあと、自分なりに「ものさし」を求めて、参加可能な放射線障害に関するいくつかの講演会に参加してきました。そこで、感じたことを書かせていただきます。

まず、事故直後、専門家はみな、危機感を持っていたようです。マスコミから出されるわずかな情報から、東電や政府が認めていなかったメルトダウンを確信していたようです。それぞれの施設で対応をしていたが、全体を包括する組織がなかったのが致命傷で、最善の処置が出来ていなかったように思われます。

そして原子炉自体は、ある程度安定する方向にある今、問題となっている地域住民の健康被害についてと、低線量被ばくの健康被害についてですが、発がん性への危惧は拭いがたく、今後検証されていくでしょう。遺伝的影響に関しては、動物実験では確認されていますが、ヒトでは有意差のある検証はないとのこと。しかし、臨床研究では一般的にさまざまな要因がからみ、統計的な処理に乗せるまでの条件設定が厳しい、まして今回のような放射線障害に至っては、ヒトでデータが取れた事故は数少ないです。また、妊娠初期の流産や胎児の異常による人工中絶に至っては、その問題のデリケートさ

から、統計には表れない数字であると思われます。ただ、遺伝子に損傷を与える可能性はあるものと考えています。

最近、食品、土壌などのヨウ素、セシウムの検査は公的にも、民間でもかなり行われるようになっていて、特定の地域の特定の農産物以外は、健康被害が出るような汚染はないようです。しかし、先日の朝日新聞社主催の低線量被ばくの健康被害の講演¹⁾では、現時点での汚染状況は、過去の核実験の影響と比べてみても安全と主張していた演者の先生が、海産物の汚染についての質問を受けた時に、ご自身でも、魚肉は食べているが、ストロンチウムは測定されていない物が多いことより、今回の事故の海洋汚染を考えると、骨に蓄積するストロンチウムには注意して、骨ごと食べる魚は控えていると回答されていました。

今回の事故と、その後の国民の不安の一因はそこにあるのではないかと。

一般的に、たとえば、魚のおこげやたばこには発がん性があるという常識があります。分煙は当たり前の中になっていますし、たいいてい人は、焦げた魚をわざわざ食べさせないでしょう。通説という「ものさし」があるから、それに当てはめて生活ができます。今回の問題は、通説がありません。自分自身を振り返ってみても、ある程度時間的余裕があり、積極的に情報を仕入れていても、実際にまだ「ものさし」が作れません。低線量被ばくを心配する母親達は、たとえばシラスは子供に与えていないでしょうが、市場に出回っているものは安全と信じていて、日々の生活に余裕がない若い子育て世代の多くの母親達は、おそらく、離乳食でシラス粥を食べさせているのではないのでしょうか。

事故当初より、マスメディアが流す情報の乏しさと、インターネットなどで得られる情報の乖離を実感し、どうせ、正確な情報は伝えられないだろうという暗黙の了解があります。

(一財)バイオインダストリー主催の「放射線障害予防とバイオサイエンス」²⁾の質疑応答でもscienceの役割について討論されましたが、今だからこそ、専門家やマスメディアが「ものさし」を作ることが求められるのではないのでしょうか？

- 1) 朝日新聞社主催シンポジウム「放射線と向き合う～低レベルの影響」2011.10.30.
- 2) “未来へのバイオ技術”勉強会 月例会「放射線障害予防とバイオサイエンス」
<http://www.jba.or.jp/report/technology/mirai-bio/110914.html>

